SFRR Japan NEWSLETTER

June 1, 2016

◇◇◇ 年次学術集会案内 ◇◇◇

第69回日本酸化ストレス学会学術集会

日　時:2016(平成28年)8月30日(火)～31日(水)
会　場:仙台国際センター
(仙台市営地下鉄東西線国際センター駅から徒歩1分)
〒980-0856　仙台市青葉区青葉山無番地
TEL 022-265-2211
http://www.aobayama.jp/
ホームページ:http://www.sfrrj69.jp/

開催のご挨拶

第69回日本酸化ストレス学会学術集会
会　長　赤池　孝章
(東北大学大学院医学系研究科　教授)

第69回日本酸化ストレス学会学術集会を平成28年8月30日(火)～31日(水)の会期で、仙台国際センターにて開催いたします。開催まで後2ヶ月あまりとなり、学会関係者一同、プログラム編成・最終調整などに取り組んでおります。過日締め切りました一般演題申し込みには、多数の演題をご登録いただきました。会員の皆様のご支援によりまして、本学術集会では、最終的に180題ちかくの講演・演題数となるようです。本学会が新たに酸化ストレス学会として統合・発足して最初に開催された2008年の京都に次ぐ大きな規模の学術集会となる見込みです。これも一重に、日本酸化ストレス学会会員の皆様の活発な研究活動の成果と学会の発展に向けた積極的なご支援の賜物と本年次集会の関係者を代表して心よりお礼申し上げます。国内外の活性酸素・酸化ストレス研究のさらなる発展の礎となり、当該学術領域に大きく貢献できる有意義な年次学術集会になりますよう、今後とも、鋭意開催準備を進めて参りますので、引き続きご支援とご協力を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

すでにホームページ等によりご案内しておりますように、本学術集会では、酸化ストレスの最先端研究を取り上げたプログラムを企画しています。一般演題以外の内容としては、特別講演では京都大学の森　泰生　教授と九州大学の住本英樹　教授に、また、教育講演では弘前大学の伊東　健　教授と東北大学の本橋ほづみ　教授に、各先生のご専門分野の最新の研究成果をまじえてご講演をいただきます。シンポジウムでは、「親電子シグナル制御」、「低酸素・チャネル制御」、「酸化ストレスと発がん」、「活性イオウシグナル制御」、「ミトコンドリア・オルガネラ機能のレドックス制御」など、近年、研究の進展の著しい5つのトピックスに焦点をあて各領域の最先端研究をご紹介いたします。さらに、広く臨床医学分野から酸化ストレス病態に関するテーマや話題も取り上げる予定です。プログラムの詳細につきましては本会ホームページ(http://www.sfrrj69.jp/)で随時更新、掲載しております。

本年度は、例年の学術集会時期よりやや遅い8月おわりの開催となりますので、清々しい秋風そよぐ仙台にて、酸化ストレス・レドックスバイオロジーの最先端研究と学術交流にくわえて、東北地方の少し早めの秋の風情と味覚をじっくりとご堪能ください。仙台にてお会いすることを楽しみにしております。

Must see, must eat!

仙台っさ、きてけさいん！

第69回日本酸化ストレス学会学術集会にご参加頂き、是非　杜の都、仙台をお楽しみください。

杜の都・仙台のシンボル定禅寺通には、約700mにわたりケヤキ並木が続いています。ケヤキの大樹に包まれた通りの中央にある緑道を歩くと、イタリアの著名な彫刻家が制作した「夏の思い出」や「オデュッセウス」「水浴の女」の彫刻に出会い、芸術に親しむことができます。

春には新緑が一斉に芽吹いて若葉のトンネルをつくり、街に安らぎを与えてくれます。また、夏には濃い緑の下での動く七夕パレード、秋には色づく木々の下での「定禅寺ストリートジャズフェスティバルin仙台」、冬には美しい光の世界を演出する光のページェントなどのイベントが催され、多くの人たちで賑わいます。

会場となる、仙台国際センターは、仙台藩祖伊達政宗が築城し、伊達家代々の居城であった仙台城(雅称:青葉城)の大手門脇櫓を眺める位置にあり、最寄り駅となる地下鉄東西線「国際センター駅(仙台駅からの乗車時間4分)」が隣接しています。また周辺には、仙台市博物館や宮城県美術館があり、仙台市民の憩いの場としても親しまれています。

日本三景の一つに数えられる「松島」には、仙台駅から車で約40分、列車仙石線を利用すると25分で向かうことができます。松島にある国宝瑞巌寺の本堂の修繕が今年の4月に完了しており、多くの観光客が訪れています。

また、秋保・作並・鳴子といった、温泉街も仙台市近郊です。秋保温泉「ホテル佐勘」では、今年5月のG7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議が行われ、全国的にもフォーカスされました。また、秋保に「さいち」という総菜屋さんがあるのですが、よくテレビでも紹介され、ここの手作りおはぎを求めて、早朝から行列ができるほどです。

仙台発祥の名物では、牛タンや笹かまぼこが有名です。近海でとれた鮮魚や地酒もございます。これらの名物は、仙台随一の繁華街「国分町」にてぜひご賞味ください。

国分町は、会場から車で10分、地下鉄を利用すると20分ほどのところにあります。国分町は東北地方最大の歓楽街ともいわれ、飲食店など約2,700店が軒を連ね、皆様のお越しをお待ちしております。

皆様には、ぜひ学術集会へ参加いただき、仙台をお楽しみください！
心よりお待ちしております。

第69回日本酸化ストレス学会学術集会
事務局長　藤井　重元
(東北大学大学院医学系研究科環境保健医学分野)

◇◇◇　次期年次学術集会案内　◇◇◇

第70回日本酸化ストレス学会学術集会
日 時:2017(平成29)年6月28日(水)～29日(木)
会 場:つくば国際会議場 (〒305-0032　茨城県つくば市竹園2丁目20番3号)
https://www.epochal.or.jp

開催のご挨拶
会 長:　長崎 幸夫
(筑波大学数理物質系・教授)

日本過酸化脂質・フリーラジカル学会と日本フリーラジカル学会が合併し、日本酸化ストレス学会が誕生した2007年以来、10回目の記念すべき学術集会を茨城県、つくばの地で開催させて頂くこととなりました。活性酸素の生理活性が議論され始めた1970年代から多くの研究が進められ、様々な疾病に関与することが解明されてきました。最近では一酸化窒素や一酸化炭素、硫化水素など様々なガス分子が体内で重要なはたらきをしていることも明らかになりつつあります。これらのバイオロジー、創薬、計測、解析など様々な面から最先端の研究成果を医学、歯学、薬学、理学、工学、農学など広く分野の垣根を越えて議論しあう有意義な場を作りたいと思っております。現在企画を進めつつありますが、これまでの大会を踏襲しつつ、「スポーツと酸化ストレス」、「慢性炎症と酸化ストレス」などの企画を進めているところです。
筑波山麓に広がるつくば市は古くから多様な文化が形成されてきました。1970年代の研究学園都市の建設を契機に科学万博を経ていま、最先端の科学技術拠点へとめざましい発展をとげてきています。そのつくばに2005年、つくばエクスプレスが開業し、秋葉原からわずか45分と驚くほどに便利になりました。開催予定のつくば国際会議場はつくば駅より徒歩8分の位置にございます。つくばの自然、酒、食、科学にふれながら、酸化ストレスを語る有意義な時間を過ごしていただければと思っております。事務局一同精一杯努力する所存でおりますので、関係各位のご支援をお願いするとともに、多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。

◇◇◇　各種申込・お問い合わせについて　◇◇◇

各種申込・お問い合わせについては、下記をご参照の上、事務局宛ご連絡お願い致します。

・会員登録内容の変更　▷　学会事務局へ書面にてご連絡下さい。
・会費納入に関するお問い合わせ　▷　学会事務局へ
・退会・休会届け　▷　学会HPより書式をダウンロード。事務局へ。
http://sfrrj.umin.jp/admission.htm　(入会案内の下部に掲載。)

・学会後援/助成依頼　▷
所定の書式はありませんが、学会概要(名称・会期・会場・会長・連絡先・会の目的、等)を明記の上、書面にて依頼書をご提出下さい。
理事会にて検討の上、追って結果を通知致します。
理事会は、基本的に年1回、学術集会開催の際に開催されます、理事会に会期が間に合わない場合は、事務局にご相談下さい。

・各種アワードの応募
1)学会賞・学術賞:年に1度公募(1-2月頃)　。応募条件を確認の上、所定の応募書類を整えて、事務局まで。
学会HPよりダウンロードして下さい。　http://sfrrj.umin.jp/award.htm
2)学術奨励賞:　年次学術集会開催時に公募。演題応募と同時にお申し込み下さい。詳細は、年次学術集会のご案内をご確認下さい。
3)八木記念学術奨励賞:　応募不要。学会オフィシャルジャーナルにおいて、前年度に第一著者として受理された論文の中から選考委員会にて選出されます。
4)国際学会における若手奨励賞(YIA): 公募されますと、学会HPのTOP　What's Newに詳細を掲載します。年度によって詳細が変更される可能性ありますので、必ず確認の上、ご応募下さい。
http://sfrrj.umin.jp/index.htm
その他不明な事があれば、ご遠慮なく事務局へ♪

国際学会に参加・発表しよう！

Joint Meeting of Society for Free Radical Biology and Medicine (SFRBM) and Society for Free Radical Research International (SFRRI)
会期:November 16-20, 2016
会場: Hyatt Regency Embarcadero Hotel
San Francisco, California USA

Further information:
www.sfrbm.org/sections/annual-meeting/information

今年はSFRR Internationalの開催年です。アメリカ　サンフランシスコにてSFRBMの年次学会と同時開催で予定されています。
SFRRIには、日本酸化ストレス学会・SFRR Asiaよりも助成を行っており、各種　Awardが予定されています。

SFRRI(SFRBM)　各種応募締切

Monday, August 15 | Travel Award Deadline
Submission deadline for abstracts to be considered for a Travel Award. You must be a student or postdoc SFRBM or SFRRI member at the time of submission to be eligible for this award.
Thursday, September 1 | Abstract & YIA Award Deadline
• Submission deadline for abstracts to be considered for either oral or poster presentation.
• Deadline for indicating you wish an abstract to be considered for a Young Investigator Award (YIA).
You must be a student or postdoc SFRBM or SFRRI member at the time of submission to be eligible for this award.
• *Presenting authors are limited to submitting one (1) abstract to be considered for a Young Investigator Award. SFRBM recommends authors submit their best work for YIA consideration.*
Saturday, October 15 | Early-bird Deadline, Save $50
• Deadline for early-bird conference registration. Registrations received after this time will be charged an additional $50 late fee.

SFRRI Asia ならびに　日本酸化ストレス学会　各種Award
現在、下記の通りのアワードが予定されております。応募詳細は会期が近づきましたら、学会HPに掲載予定です。是非沢山の応募をお待ちしております。
SFRR Asia Travel Award　2名
SFRR Asia Young investigator Award　6名程度
SFRR Japan Young investigator Award　5名程度

各々、賞状ならびに副賞(賞金)が授与されます。演題応募する若手研究者が是非ご応募ご予定下さい。今年は、日本酸化ストレス学会YIAの副賞は増額予定です！

Award受賞に向けて

・とにもかくにも演題を応募しましょう。
・応募は会員に限ります。今一度、入会の有無、更には、応募年度までの年会費の納入の確認を忘れずに。不明の場合は、事務局にご遠慮なくお問い合わせ下さい。
・応募条件を再度確認致しましょう。賞によって年齢制限、会員歴などが設定されております。
・応募書類(応募抄録、略歴等)を揃えて、期日迄に応募。
・発表
・Awarding Ceremonyへの出席(懇親会で行われる事が多いです。)

詳細は、HPをご確認下さい。
http://sfrrj.umin.jp　TOP頁→What's New→2016YIA公募について

◇◇◇ 学会レポート ◇◇◇

【夏の思い出
～フリーラジカルスクール in 館山に参加して】
会　期：2016（平成28）年1月29日（金）p.m.～30日（土）a.m.
会　場：烟河（けぶりかわ）会議室　（京都府亀岡市）

間嶋　淳
（京都府立医科大学　消化器内科）

それは大学院での実験生活も1年を過ぎ、実験にも少し慣れてきた頃に突然上司から送られてきたメールでした。「今している実験はそこそこにして、酸化ストレスと腸管透過性の研究をして下さい。」ん？さんか？ストレス？もともと腸管透過性関係の実験をしていましたが、酸化ストレスに関しては全く知識がなく、ひとまず教科書を開いてみるものの強烈な催眠作用に悩まされていた所に、館山でFree Radical Summer Schoolが行われるということを聞きました。どうもそれが酸化ストレス関連のものらしく、また今年は土日で開催されるということもあり参加することを決めました。
そもそも館山がどこかも知らなかったのですが、調べてみると房総半島の先っぽにあることがわかり、参加するとは言ったもののえらい遠くで。。と正直思いました。実際に京都からは片道約5時間とかなり時間がかかりましたが、それを補ってあまりある充実したスクールでした。
まずその立地。京都に住んでいる私にとって海はあまり身近な存在ではありませんので、館山に向かう電車から海が見えてくると、自然と「波乗りジョニー」が頭に流れテンションも上がっていきました。スクールは筑波大学の研修施設で行われ、主に講義が中心でしたが、酸化ストレス学会で第一線で活躍されている先生方が分かりやすい解説をして下さり、先に述べた通りど素人の私にとっても非常にためになるものでした。
さらに花火。研修施設が館山湾の浜辺からすぐのところにあり、館山湾花火大会(打ち上げ数：約1万発、昨年の人出：約13万人)をまさに目の前で、ベランダからゆったりとビールを片手に鑑賞することができます。もちろん一般の人は入れませんので場所取りの必要もありません。その後、深夜まで宴会が続いたことは言うまでもありません。来られていた先生方はみなフレンドリーな方で、いろいろとお話をさせていただきました。
以上のように、私にとっては一石三鳥にも四鳥にもなるスクールであり、一泊二日でしたが非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。松井先生を初めお世話になった筑波大学の先生方にはこの場をかりてお礼を申し上げます。いつの日か大舞台で、「私の研究の基礎は館山でのFreeradical Summer Schoolです」と堂々発表できるように、このスクールで得た知識を糧に今後も頑張っていこうと思います。どうもありがとうございました。

☞次回は以下の通り。是非ご参加下さい。

フリーラジカルスクール in 館山　2016

会　期：2016.8.8(Mon)-8.9(Tue)
会　場：筑波大学館山研修所
https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/facilities/s-tateyama.html

参加登録費：1万円（食費・宿泊費を除く）
参加登録：下記URLにて、事前登録お願いします。
筑波大学消化器内科　松井研究室
http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/matsui-GI/

若手奨励の為のアワードも予定されております。
楽しく泊まり込みながら、当該分野のベテラン講師の先生方の講演を聴きながら、色々な知識を吸収出来、また夜は花火を楽しみながら、更なる交流を深める合宿形式です。

【第32回臨床フリーラジカル会議に出席して】
会　期：2016（平成28）年1月29日（金）p.m.～30日（土）a.m.
会　場：烟河（けぶりかわ）会議室　（京都府亀岡市）

本間　拓二郎
（山形大学大学院・生化学分子生物学 ）

2016年1月29日～30日に京都・烟河（けぶりかわ）で開かれました第32回臨床フリーラジカル会議に参加しました。1泊2日の宿泊を伴うアットホームな研究会で、京都市内より少し離れた自然に囲まれた郊外でゆったりとした雰囲気の中で盛会に行われました。「加速するフリーラジカル研究」が本会議の主題であり、とくに、フリーラジカルと各種病態との関連についてのご講演を興味深く拝聴しました。代表世話人・吉川敏一先生の「(加速しているのではなくて)減速しているのではないか」とのご挨拶(ご叱責？)から始まり、若手セッションでは私を含め9名の演者が発表を行いました。フリーラジカル研究の新参者の私としては、エキスパートの先生方の前で発表する機会は今回が初めてであり、幾分か緊張しましたが、良い機会に恵まれました。また、質疑応答の時間が発表時間よりも長く設けられており、若手育成への教育的な配慮を感じました。夜は豪華なぼたん鍋、岩風呂(露天風呂)も満喫しました。2日目の特別講演では、的場聖明先生(京都府立医科大学)が加齢に伴い活性化したp53タンパク質が不良ミトコンドリアのオートファジー分解(=マイトファジー)を阻害することで、ミトコンドリアの品質低下を引き起こし、心不全やその他の病態の危険因子となるとのご講演をされました。オートファジーは今それ自体とてもホットな研究分野ですが、今後レドックス応答や老化との関連についても益々盛んになっていくと思われます。
最後に、参加宿泊費をご援助くださいました臨床フリーラジカル会議事務局の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

☞次回は以下の通り。是非ご参加下さい。

第32回臨床フリーラジカル会議
会　期：2017（平成29）年1月27日（金）p.m.～28日（土）a.m.
会　場：烟河（けぶりかわ）会議室　（京都府亀岡市）
〒621-0251　京都府亀岡市本梅町平松1-1
TEL　0771-26-2345
http://www.keburikawa.com
当番世話人：吉川 敏一
（京都府立医科大学学長）
問い合わせ先：臨床フリーラジカル会議　事務局
京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
e-mail: handao@koto.kpu-m.ac.jp

◇◇◇ 関連学会　開催案内◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

2016年度関東支部会年会　（第31回）
会　期：2016（平成28）年12月17日（土）
会　場：芝浦工業大学　豊洲キャンパスまたは芝浦キャンパス（詳細はHP）
会　長：越阪部　奈緒美（芝浦工業大学システム理工学部生命科学科）
副会長：福井　浩二
参加費：2,000円（学生無料）　予定
懇親会費：3,000円（学生1,000円）予定
※詳細は、追ってHPへ掲載予定。

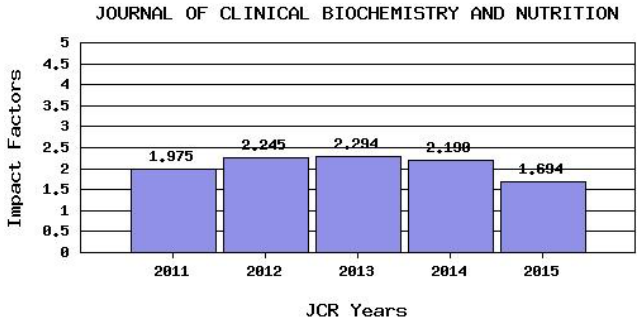
日本酸化ストレス学会東海支部　第5回学術集会
日　時：2017（平成29）年2月18日（土）午後（予定）
会　場：愛知学院大学名城公園キャンパス
（〒462-8739 愛知県名古屋市北区名城3-1-1）
実行委員長：大澤俊彦（愛知学院大学）

詳細は、決まりましたら随時学会HPに掲載予定。

JCBN（学会オフィシャルジャーナル）情報
(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)

オンラインによる投稿随時受付中！
Online SubmissionのURL
http://www.editorialmanager.com/jcbn/

現在の Impact Factor : 1.694 (2015)



JCBN誌は、年6回（毎奇数月）に発行の英文雑誌です。広く投稿を受付ております。応募規定は、学会HPよりご確認下さい。
ページ掲載料が、一般@8,000円/頁 のところ、会員割引価格 @5,000円/頁となっております。是非、この特典をご利用下さい！
オンライン投稿の際に、必ず会員のチェックを忘れずにお願いします。

シリーズ：酸化ストレスのつぶやき 第11回

河合 慶親
（徳島大学大学院医歯薬学研究部食品機能学分野）

名古屋大学農学部の学生として卒論研究を開始してから早いもので20年目となりますが、そのうち半分以上の時間を徳島大学医学部栄養学科（2014年より医科栄養学科へ改組）で過ごしていることになります。“国立大医学部唯一の管理栄養士課程”としても知られる当学科では、同じキャンパス内に大学病院もあり、ヒトを対象とした食品・栄養学研究が出来る非常に恵まれた研究環境にあります。かくいう私自身、恥ずかしながら管理栄養士課程について、もっと言えば管理栄養士そのものについて当学科で職を得るまでほとんど知りませんでした。高校3年の秋に「病気を予防するために食品の研究をしたい」と思って志望学部を決めたのですが、少なくとも当時の私にとって「食＝農学」以外の発想がありませんでした。おそらく当時からオープンキャンパスをはじめとする様々な情報や機会はあったのだと思いますが、いい加減な私はほとんど聞いていなかったのでしょう。そんな私も今ではオープンキャンパスでミニ講義をしたり、高校に出張授業にも行くことがあります。高校当時の自分を思い出したり、また10歳になる一人娘もあと10年もしないうちに大学受験だなぁ、とかあれこれ想いを馳せながら、少しでも若者のプラスになればと願いつつ講義をしています。ところで、女子学生も多く華やかな印象のある管理栄養士課程ですが、当学科には毎年一割程度（50人中5～10名弱）異色の男子学生も入学してきます。少数派ということで嫌でも（特に成績が芳しくない）教員に名前と顔を覚えられてしまったり、女性陣にこき使われる（頼りにされている、とも言えますが・・・）のは少々気の毒な面もありますが、一方で貴重な男性管理栄養士の卵として大いに期待される存在となっています。農学部に進んだ私としては、そんな学生たちに管理栄養士課程を志望した理由や将来の夢などを（根掘り葉掘り）聞いたりするのも楽しみの一つとなっています。中にはフワ～っと来てしまった学生さんも居るようですが、「徳島大の栄養で学びたい」「管理栄養士になりたい」と強い意志をもって来ている学生さんも居て、管理栄養士課程というものがしっかりと高校生にとっての「選択肢」となっていることを実感します。さて、酸化ストレス学会では、食品成分や栄養素のもつ抗酸化作用は古くから重要なテーマの一つだと理解していますが、本学会に参加する食品・栄養関係の研究者（特に学生）はまだまだ少ないように感じます。いまだに阿波踊りも踊れない私ですが、徳島の地から生きの良い（踊れる）若者を酸化ストレス学会へ送り込むべく、微力ながら頑張ろうと思います。
化ストレス学会へ送り込むべく、微力ながら頑張ろうと思います。

◇◇◇ SFRR International / Asia News ◇◇◇

SFRR Japan（日本酸化ストレス学会）は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

本年2016年は、SFRR Internationalの開催年。（詳細はP2参照）

次回SFRR Asiaは下記の通り予定されております。

8th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research Asia

Date: （検討中）
Venue: Nanyang Hotel: Xi'an Jiaotong University Academic Center, Xi'an, China
Organizers: SFRR-China
Sponsor: Xi'an Jiaotong University
Organized by Dr. Jiankang LIU, Xi'an Jiaotong University
Advisers: Dr. Yang LIU, Dr. Chang CHEN

詳細は決まり次第、HPに随時掲載予定です。
次々回 第9回は、日本開催の予定です。日本酸化ストレス学会の主催となりますので、是非皆様ご協力お願い致します。

SFRR Asia オフィシャルジャーナル “Free Radical Research” 会員特別価格での購読受付中。
是非多くの購読をお申し込み下さい！
FRRの出版社（2015年よりTaylor & Francis社に変更となりました。）は、Young Investigator Award ならびに Travel Awardの協賛企業です。
詳細は、学会HPまで。

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

6月に入り、全国的に梅雨入りとなりました。少しうっとおしい日々が続き、夏が来るのが待ち遠しい気分でしょうか。今年の年次学術集会の開催は、例年とは少し遅れて8月となっておりますので、皆様方へのニュースレターのお届けは、郵送となります。総務委員会では、会員の皆様にお役立ち情報の提供や、ご活躍をご紹介する場を提供出来れば、、と鋭意制作に務めております。是非、ゆっくりお目通し頂けましたら幸いです。

☆☆☆ いつものように事務局からのお願いです。☆☆☆

・年会費のご納入はお済みですか？ 出来るだけ早めのご納入をお願い致します。過年の未納がある場合は、合わせてお願いします。

・ご所属や連絡先の変更があった場合は、速やかに事務局までご連絡をお願い致します。相変わらず、転居先不明でご連絡がつかなくなる場合が少なくありません。ご所属を異動された場合や、学生を卒業し一般への登録変更の場合や、卒業後もしくは退職・退官後、継続希望されない場合、必ずご連絡お願いします。留学などで休会を希望する場合は休会届けをお願い致します。

退会届・休会届は、学会HPよりダウンロード出来ます！

会員登録情報変更、事務局までお願いします！

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

SFRR Newsletter 2016年6月号
発行：2016年6月1日

SFRR Japan Newsletter に掲載を希望される方、あるいは、ご意見などありましたら、下記事務局宛ご連絡下さい。

SFRR Japan事務局 （総務委員会：内藤裕二・半田 修）
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
TEL: 075-254-8520 FAX: 075-254-8521
E-mail: sfrrj@koto.kpu-m.ac.jp
HP: http://sfrrj.umin.jp/index.htm